拝啓

秋気いよいよ深く、西木野様におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。私は元気に過ごしております。――なんて、かしこまった調子で書いてみたけど、私達の間にそういうのは似合わないので、やめです。私達が会わなかった十年程度の時間は、これを書くまで何も変わっていないだろうと思っていた私を、少し大人にしてし

まったようです。真姫ちゃんは、どうかな？

さて、こうして手紙を書いたのは、私の身に何かあったわけではありません。ただ、皆の中で、真姫ちゃんだけが遠い所に行ってしまったので、これくらいしか連絡手段がなかったので書いているだけです。どうしているのかな？　って心配になって、色々な人に尋ねて、この手紙は真姫ちゃん

の手に届いてます。

真姫ちゃんはあれからどうですか？別々の大学に進んで、医師になるために勉強に励んでいることを聞いて、私達と一緒だったあの三年間が、真姫ちゃんにとって、何にも縛られず自由に過ごせた最後の時なんだ、と思います。念願の医師になれて、どうですか？　きっと大変で、こんな手紙を読んでいるヒマなんて全然ないかな？

いつ、どこで、どんな時に読んでいるか普通の社会人をしている私には分かりません。でも、……だから、この手紙を読んでいるであろう真姫ちゃんが、これからも元気であることを祈ります。

言いたいことや聞きたいことは沢山あります。こうして書きながら、溢れてきます。あれを書いてみようかな、いやいややめておこう、でも、ってなって、何度も筆が止

まりました。長々と書いて、真姫ちゃんの気を引き留めるような真似はよします。

それじゃ、寒さも厳しくなってきましたので、お体にお気をつけてお過ごしください。

かしこ

十一月二十七日　小泉花陽

西木野真姫様